

# 生きもののシンフォニー

いのちがやくなごや

令和7年9月  
46号

特集

## なごや 生物多様性 サマースクール 2025



7月19日(土)

調査員は君だ!!  
猪高緑地・塚ノ杵池の生き物たち  
講師:名東自然倶楽部



7月25日(金)

押しプランクトンの  
キーホルダーを作ろう☆  
講師:名古屋市環境科学調査センター



7月26日(土)

竹林調査と水鉄砲作り  
講師:大高竹の会



7月27日(日)

田んぼと畑で生き物さがし  
講師:NPO法人 日進野菜塾



7月27日(日)

巣箱を作って  
森に小鳥を呼ぼう!  
講師:相生山緑地オアシスの森くらぶ



7月29日(火)

外来種の昆虫を採って駆除しよう  
講師:ピオトープ・ネットワーク中部



8月2日(土)

昆虫の採集と標本づくり  
講師:名古屋昆虫同好会



8月2日(土)

天白川の水源地を訪ねてみよう  
講師:名古屋自然観察会



8月6日(水)

骨の標本をつくろう  
講師:なごや生物多様性センター



8月11日(月)

チリメンモンスターをさがそう!  
講師:「あいちの海」グリーンマップ

### CONTENTS

特集

なごや生物多様性サマースクール2025 ..... P1~3

- TOPICS 見るたび変わるピオトープの魅力 ~ビオ活のすすめ~ ..... P3~4
- TOPICS ビオトープの昆虫調査に挑戦! ~新人昆虫奮闘記~ ..... P4
- TOPICS ウズムシって知ってる? ~ピオトープに広がる小さな生きものの世界~ ..... P5
- 活動紹介 名古屋大学生物研究会 ..... P6
- 掲 示 板 「なごや生物多様性センターまつり/ユースひろば」を開催します ..... P6

14

海の豊かさを  
守ろう



15

陸の豊かさも  
守ろう



17

パートナーシップで  
目標を達成しよう



特集

# なごや生物多様性サマースクール2025

子どもたちの夏休み期間中に、今年もサマースクールが開催されました。生きものを採集して研究や調査をしたり、ものづくりをしたり…子どもたちの知的好奇心を育んだ全10講座から2講座の様子をご紹介します。

(主催：なごや生物多様性保全活動協議会)



## 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう!

7月27日(日) 8:50~12:00

講師:相生山緑地オアシスの森くらぶ

場所 相生山緑地オアシスの森(天白区)

夏の森に、トントン、ギコギコというにぎやかな音が響きました。天白区に広がる「相生山緑地オアシスの森」で、小鳥のすみかとなる巣箱を手作りする講座が開かれ、11人の子どもたちが参加しました。講師を務めたのは、この森の保全活動を行っている市民団体「相生山緑地オアシスの森くらぶ」の皆さんです。

はじめに講師は、「これは木工ではなく、自然とつながる第一歩」と説明。作った巣箱は来年の春、実際に鳥たちが使ってくれることを楽しみにするという趣旨も伝えられました。

森の中は街中よりも4度ほど気温が低く、木陰もたくさん。



巣箱が完成!

どんな鳥が来てくれるかな?

そんな涼しい環境の中で、子どもたちは、のこぎりで木を切り、金づちでくぎを打ち、講師や保護者のサポートを受けながら、少しずつ作業を進めていきました。「斜めに切るのがむずかしい〜!」「くぎが曲がっちゃった…」と苦戦する場面も見られましたが、全員が時間内に完成。巣箱を手に、笑顔で写真を撮る姿もありました。

作った巣箱は、自宅に持ち帰って庭の木などに取り付けられるほか、11月の「定例活動日」に持参すれば、この森の木に設置することができます。講師からは、「巣箱の入り口はできるだけ南向きか、ひらけた場所に向けて。設置する高さは地面から2メートル以上が理想的」といったアドバイスも紹介され、鳥にとって居心地の良い環境づくりのポイントが伝えられました。たとえ鳥が使わなかったとしても、昆虫などの小さな生き物たちのすみかになることもあるのだそうです。講師は最後に、「この体験が、子どもたちにとって自然への入り口となればうれしいです」と締めくくりました。



鳥たちが来てくれる日を楽しみに、巣箱を作ろう

うまく切れるかな?

ドキドキのこぎり体験

くぎがちょっと曲がっちゃった…

でも大丈夫!

# チリメンモンスターをさがそう!

8月11日(月) 10:00~12:00

講師:「あいちの海」グリーンマップ

場所 なごや生物多様性センター 2階会議室

普段、スーパーなどで見かけるチリメンジャコ。このチリメンジャコに混じっているチリメン以外の生きものをさがす講座が開かれました。チリメンジャコは、おもに「カタクチイワシ」の稚魚です。漁師さんがイワシを狙って網を引くとき、さまざまな微小な生きものが一緒に入ってしまう。これらの生きものは、通常は商品化の過程で取り除かれますが、それを「チリメンモンスター（通称“チリモン”）」と名付けて観察することで、海の生物多様性を学ぶのがこの講座の目的です。チリモンという未知の生物との出会いを前に、会場は宝さがしが始まる前のようなワクワク感に包まれました。



講師の説明を聞いた後、いよいよチリモンさがしがスタート!参加者はピンセットを手に、チリメンジャコの山の中から小さな生きものをさがし出します。「これ、カニの赤ちゃんかな?」「タコっぽい!」と声があがり、見つけた生きものは「チリモン図鑑」と見比べて種類を確認。台紙に貼り付け、自分だけのオリジナル図鑑を仕上げていきます。体の一部しかなく判別が難しいものもあり、拡大鏡や顕微鏡をのぞき込み、熱心に観察する姿も見られました。

後半には、「自慢の発見」の発表タイムが設けられ、ヒラメやアユ、魚の体表に寄生するウオノエなどめずらしい生きものが披露されると、「すごい!」「見せて」と驚きと歓声でいっぱい。講師は「チリモンを通して、海にはこんなにも多くの命が息づいていることを知ってほしい」と語りました。子どもたちは「もっとさがしたい!」と声を弾ませながら、誇らしげに完成した作品を手に会場を後にしました。



## TOPICS

生きものシンフォニー42号(令和6年3月発行)では、令和4年3月にセンターに整備したビオトープの様子を紹介させていただきました。今回はその続報として、ビオトープに関わる3名の職員それぞれの視点から開設4年目を迎えるビオトープの魅力を紹介します。

### 見るたび変わるビオトープの魅力 ~バイオ活のすすめ~

私は今年度より、センターのビオトープの管理・観察(バイオ活)の担当をしています。

センターのビオトープでは新しい土地がどのように遷移(移り変わり)していくのかをモニタリングしています。2022年に整備して以降、年ごと、季節ごとに移ろいを見せ、観察のたびに新しい発見がありとても面白いです。

今回は今年度にビオトープで観察された生きものやビオトープ関連のイベントについて紹介したいと思います。

まず生きものについて、2023年6月に導入したミナミメダカが順調に繁殖しています。また、ビオトープには様々な生きものが訪れています(写真1~6)。5月にはヌマガエルが繁殖し(写真2)、6月にはトンボ類が数種類確認できました(写真3~5)。他にもセンターの隅を流れる植田川から登ってきたであろうモクスガニが見られました(写真6)。また、春先に花を咲かせる植物が増え、春をより感じられるようになりました(写真7,8)。

一方で、ビオトープを訪れる生きものの中には外来種も見られます。2025年3月にウシガエルを確認し、防除のため罠を設置したところ最終的に8匹が捕獲されました。引き続き防除に努めていきたいと思っています(詳細は生きものコラム内の「ビオトープ襲撃!!外来種によ



センサーカメラに映ったカワセミ



毎年見かけるヌマガエル



アオモンイトトンボ(交尾中)



キイトトンボ



コナラの上に乗るチョウトンボ



モクスガニ

る脅威]を参照)。

日頃からビオトープの観察や管理を続ける中で、管理方法のノウハウも蓄積されてきました。こうしたノウハウを活かし、2025年度からは新たな試みとしてビオトープを設置している小学校への出前講座を始めました。天白区内の小学校で実施した出前講座では、ビオトープの説明や意義、小学校のビオトープで見られた生きものについて解説を行いました。また、どんな生きものに訪れてほしいかを児童と考え、多様な生きものの生息空間やトンボの産卵場所を確保するために、水面を覆いつくしていた外来の水草を児童達と一緒に取り除きました(写真9.10)。今後も先生方と相談しながら、経過観察をしていきたいと考えています。

ビオトープは日々移ろい、見ていて飽きませんし、身近な生物多様性について知ってもらうきっかけにもなります。センターまつりの際には、ビオトープツアーを開催する予定ですので、関心のある方はぜひお越しください。

(生物多様性普及推進員 水野 いづみ)

生きものコラム  
はこちらから



写真7  
2025年に初めて咲いた  
キイチゴ属の1種



写真8  
ネジバナ

### 小学校での出前講座~ビオトープ整備編~



Before



After

## ビオトープの昆虫調査に挑戦! ~新人昆虫奮闘記~

センターではビオトープにどのような昆虫が訪れているのか把握する目的で、月に一度の昆虫調査を実施しています。昆虫調査には「採集」と「分類(種同定)」、「標本づくり」の大きく分けて3つの工程があり、現在この3工程に挑戦しています!

「採集」では様々な環境に適した採集方法でアプローチしていきます。定量的な調査とするために、制限時間を設定して採集します。スウィーピングでは木の枝先や植物の先端をなぎ払うように網を振ります(写真1)。吸管管という道具を用いて、網に入った昆虫は回収するのですが、うまく吸うのが難しいため、設定した時間内になるべく多く回収できるように練習しています(写真2)。

「分類」では図鑑や論文を参考にしながら、採集した昆虫がどの種に属するのかを特定します(写真3)。検索図鑑を用いることで、手順通りに確認していけば(図鑑記載の種ならば)特定できるはずなのですが、センターが所蔵する図鑑に載っていない種も多くあり、なかなかこの作業が進みません。溜まりすぎてしまう前に片付けられるよう注力していきます(写真4)。

標本づくりでは、各昆虫の特徴に合わせて、後の分類作業の際に同定ポイントとなる部位が見やすいように注意しています。昆虫の種類によって作成難易度は異なりますが、シジミチョウのような小型のチョウは何度も翅(はね)を壊してしまい、難しさを感じています。こればかりは慣れと経験の問題なので、技術を習得できるまで頑張ります(写真5)。ビオトープでは晩春から秋にかけて多くの種類のトンボ類が訪れます。時期によって見ることでできる種類が異なりますので、ビオトープで調査をするたびに季節の移り変わりを感じられて面白いです(写真6)。

私はこれまで水生昆虫しか扱ってこなかったもので、網でのスウィーピングや捕虫管、展翅標本の作製など、初めてのことばかりです。それでもセンター内外の皆様の助けもあり、楽しく調査に取り組んでいます!



写真3  
よく見ると宝石のような小さい昆虫たち  
スウィーピングにて採取したもの



写真4  
顕微鏡を用いて種同定



写真5  
見るも無残な姿になったチョウの標本



写真6  
ショウジョウトンボと  
オオシオカラトンボの標本

(生物多様性市民協働推進員 中西 真人)

## ウズムシって知ってる？ ～ビオトープに広がる小さな生きものの世界～



皆さん、「ウズムシ」という生きものをご存じでしょうか？

「プラナリア」という名前なら聞いたことがある方もいるかもしれませんが(写真1)。ウズムシは、扁形(へんけい)動物というグループに属するもののうち、寄生せず自由にくらす種類の総称です。体に左右の区別があり、ミミズと違って肛門がなく、腸をもつことが特徴です。プラナリアはウズムシの一種であり、その中でも「三岐腸目(さんきちょうもく)」に属します。

私はウズムシが好きなのでセンターのビオトープでウズムシを探したいと思います。

なごや生物多様性センターのビオトープは、ひょうたんの形をした水辺です。ポンプの働きで、下流の水が上流へくみ上げられ、全体にゆるやかな流れが生まれています。上流は浅く(水深約5cm)、下流はやや深めの池(約30cm)で、基本的には雨水で給水をしています。ウズムシを探すためにビオトープを見渡しますと、上流から水が流れ落ちるポイントがあります。このようなポイントは酸素が豊富で、その中でも水流を軽減するシャジクモの生息している環境にはたくさんの微生物が暮らしていると考えられますので、ここを採集ポイントに定めます(写真2)。

いざ、採集(写真3)。

このビオトープの小さな生きものたちを調べるため、今回は水を1リットル採取し、実体顕微鏡(20倍)で観察しました。観察時の水温は34.7℃と高めでしたが、水質も調査したところ、水の中の栄養は多すぎてもなく少な過ぎるのでもない、生きものにとってすみやすい環境でした。

観察の結果、主に体長30μm以上の微生物が「属」レベルで32グループ見つかりました。とくに個体数が多かったグループを順に5つ述べますと、1位：藻類のコウガイチリモ属(14,000個体)(写真4)、2位：藻類のツツミモ属(200個体)、3位：繊毛虫類のアンフィレプタス属(51個体)、4位：藻類のミカヅキモ属(50個体)、そして5位：ウズムシ類のクサリヒメウズムシ属(36個体)でした。



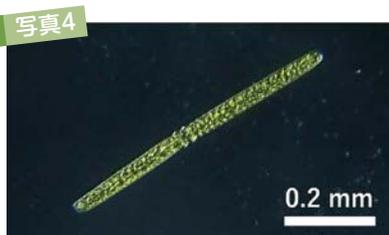
プラナリアの一種、アメリカツノウズムシ  
(*Girardia dorotocephala*)



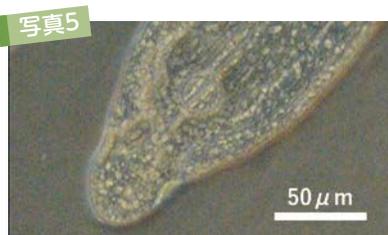
シャジクモ(*Chara braunii*)



良さそうな  
採集ポイントを特定中



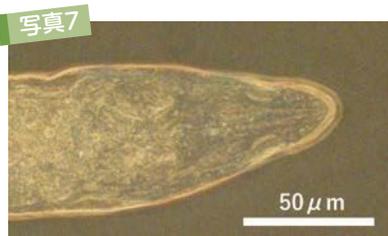
コウガイチリモ属(*Pleurotaenium*)の一種



ウエクチクサリヒメウズムシ  
(*Stenostomum simplex*)



オオクサリヒメウズムシ  
(*Stenostomum grande*)



コガタクサリヒメウズムシ  
(*Stenostomum saliens*)

クサリヒメウズムシ属の中でも、今回確認されたのは、

- ・繊毛虫を食べるウエクチクサリヒメウズムシ 19 個体 (*Stenostomum simplex*) (写真5)

- ・ミジンコの死がいを食べるオオクサリヒメウズムシ 14 個体 (*S. grande*) (写真6)

- ・べん毛虫を食べるコガタクサリヒメウズムシ 3 個体 (*S. saliens*) (写真7)

などで、個体数は少ないながら食べ物異なる多様な種類が見られました。これらが生きているということは、餌となる生き物も豊かにくらしている証拠。小さな水辺にも、驚くほど多くの命のつながりが広がっていることがわかります。

(生物多様性専門員 山崎 真嗣)



こちらも  
ご覧ください



ブログ



X(全体)



名古屋大学生物研究会（通称「生研」）は、生きものの観察や採集、飼育を楽しむサークルです。毎月1回、名古屋大学東山キャンパスでバードセンサス（通称「鳥セン」）を実施しています。1971年の創部以来54年間続いている活動で、森林、池、田んぼ、畑など多様な環境がある構内を歩いて、鳥をカウントしています。鳥を中心にたくさんの生きものを観察し、季節の移り変わりを感じられる活動です。

このほか、東海地方を中心とする様々なフィールドに出かけて生きものを観察する遠足や合宿、部員が採集・調査した生きものを一般の方々に紹介する名大祭展示など、活動は多岐にわたります。また、名古屋大学博物館をはじめ、外部の各機関・団体と連携したイベントの企画も実施しています。

ここ数年は、特定のジャンルの生きものに興味を持つ人が集まって活動を行う班活動が盛んです。現在、「水班」、「哺乳類班」、「虫班」の3つの班があります。「水班」は東海地方での魚の採集や釣りを中心に活動しており、長期休みには遠方への合宿も行っています。「哺乳類班」では、シカなどの骨格標本づくりや、岡崎市東公園動物園にご協力いただき、ゾウやウマのフンを活用した「あにまるペーパー」の作製を行っています。「虫班」は今年できたばかりの班で、昆虫の採集や標本づくりなどを行っています。

これからも各部員の興味関心を深めながら、名大祭や外部団体との企画を通じて生きものの魅力を発信していきたいです。

また、なごビオに令和7年4月1日より加入しましたので、今後は自然豊かな名古屋大学の立地と学生ならではの視点を活かしながら、なごビオを通じた生きものの調査や他主体との交流活動に積極的に参加していきたいです。



毎月1回のバードセンサス(鳥セン)



河川でのガサガサ採集



馬(左)と象(右)のあにまるペーパー



昆虫標本の名大祭展示

掲示板

第10回 なごや生物多様性センターまつり

令和7年11月8日(土) 10:00~15:00

小雨  
決行

入場  
無料

会場 なごや生物多様性センター

なごや生物多様性センターで保全している水生生物のミニ水族館（なごやリウム）や取蔵標本のミニ博物館（なごやナチュレ）を特別公開します。身近な自然や生きものについてのワークショップなど、子どもから大人まで楽しく学べるイベントを開催します。

同時開催 生物多様性ユースひろば ▶ 中高生たちが生きものに関する日頃の活動などを発表します。



「市民生きもの調査員」に  
登録しませんか？

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイト！



問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー 検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式サイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<https://bdnagoya.jp/>

地下鉄  
塩釜口駅2番  
または  
3番出口から  
徒歩5分

